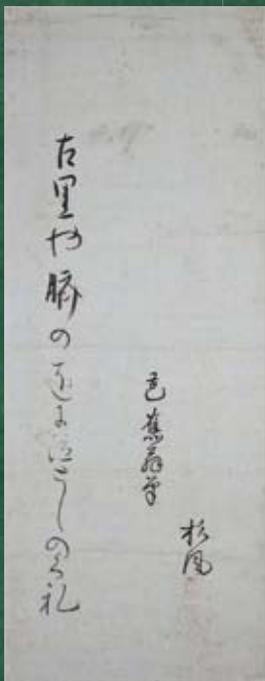


# 芭蕉翁顕彰

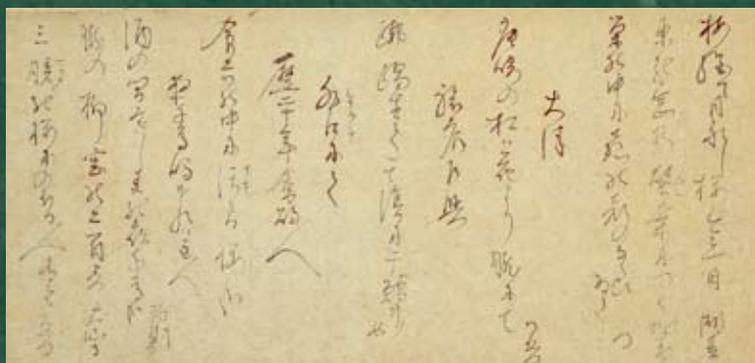
平成29年度 第71回芭蕉祭特別展



松尾芭蕉筆 「古里や」 発句切  
(公財)芭蕉翁顕彰会所蔵



松尾芭蕉筆 「自然」 一行物  
(公財)芭蕉翁顕彰会所蔵



松尾芭蕉筆 「野ざらし紀行」 旅中句切 森幸一氏所蔵

平成29年  
10月7日(土)~12月27日(水)

会場：芭蕉翁記念館

〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内117-13

開館時間：午前8時30分~午後5時 ※入館は午後4時30分まで

入館料：大人 300円 (200円)

小中高生 100円 (60円) ※( )内は30名以上の団体料金

※11月13日(月)は休館します。



正保元年（二六四四）に伊賀国阿拝郡（現在の三重県伊賀市）で生を受けた松尾芭蕉は、それまでの言語遊戯的な俳諧から脱却して、「蕉風」とよばれる俳風を樹立しました。その作品の集大成ともいえる俳諧紀行が『おくのほそ道』であり、元禄十五年（二七〇二）に発行されました。それを待たずして、元禄七年（二六九四）十月十二日に芭蕉は数え年五十二歳で亡くなりました。

その偉業を顕彰する動きは歿後すぐに始まり、芭蕉の俳論は、伊賀蕉門の服部土芳が『三冊子』として、向井去来が『去来抄』としてまとめました。土芳の俳諧日記『蓑虫庵集』には、芭蕉の初七日・百箇日・一周忌・三回忌から三十三回忌までの伊賀での追善の記述がみられます。そして、芭蕉百回忌のころからは盛んに芭蕉顕彰が行われ、一方で、芭蕉の神格化がはかられるようにもなりました。

この展覧会では、芭蕉の生涯の作品を、延宝・天和期（二六七三年～二六八四年）、『野ざらし紀行』の旅（貞享元年～二年（二六八四～八五））、『笈の小文』の旅（貞享四年～五年（二六八七～八八））、『おくのほそ道』の旅（元禄二年（二六八九））と年代を追って展示し、土芳の作品や菊岡沾涼の作品などを、芭蕉顕彰という視点からご覧いただけます。

幕末期の芭蕉百五十回忌、明治期の芭蕉二百回忌などの遠忌を経て、昭和二十二年（一九四七）には、当時の上野市で第二回芭蕉祭が開催され、本年度で第七十二回を迎えます。市民一丸となつての芭蕉顕彰の歩みを、さまざまなお知らせから感じ取ってください。

### ◆特別展示のご案内◆

松尾芭蕉筆 『野ざらし紀行』旅中句切 森幸一氏所蔵

10月7日（土）～10月29日（日）

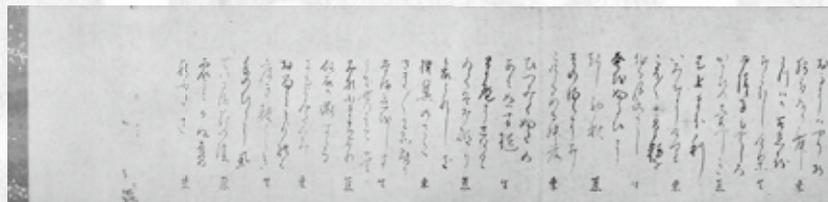
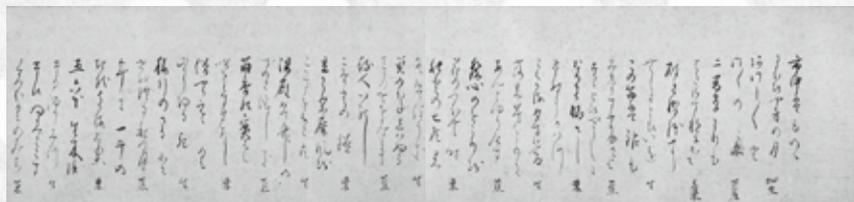
山田成章筆 芭蕉翁涅槃図 愛染院所蔵

10月7日（土）～11月12日（日）

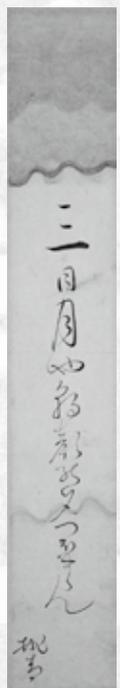
◎この他、前期（11月12日まで）・後期（11月14日から）にわけて、作品の展示替えを行います。 ※11月13日（月）は休館



山田成章筆 芭蕉翁涅槃図 愛染院所蔵



松尾芭蕉筆 「市中は」歌仙卷子 (公財) 芭蕉翁顕彰会所蔵



松尾芭蕉筆 「三日月や」発句短冊 伊賀市所蔵